

昭和39年度活動報告

オープン戦

◇3月18日徳山市営球場

甲南大	0	0	0	0	0	1	0	1
徳山市役所	0	0	0	0	0	0	0	0

(投手)中西一末次

[甲南大]	打	安	点	[徳山市役所]	打	安	点
⑥ 田崎山	2	0	0	⑤ 国南	4	0	0
③ 重石	5	0	0	⑥ 安南	4	2	0
⑤ 山中	4	2	0	⑦ 中安	4	1	0
② 葉中	4	2	0	⑧ 倉中	4	2	0
⑧ 橋	5	3	0	⑨ 崎倉	4	1	0
⑨ 黄	3	0	0	④ 青河	4	2	0
PH9 木	1	1	0	③ 青木	2	0	0
⑦ 金	0	0	0	② 本浦	0	0	0
④ 藤	2	0	0	① 田中	0	0	0
PH4 石	4	1	0	① 山末	2	1	0
④ 左	0	0	0	① 中後	1	1	0
① 古	0	0	0	計	32	10	0
PH1 中	3	0	0				
計	35	9	1				

◇3月29日住友中山球場

住友	0	0	0	2	0	0	1	0	3
甲南大	1	0	0	0	6	3	0	0	10

▽三塁打切山(住)
▽二塁打重田・岩井(甲)・水川・高野(住)
(投手)藤田一平田

[甲南大]	打	安	点	[住友]	打	安	点
⑥ 田本	4	3	0	② 高野	5	5	2
⑥ 重藤	1	0	0	⑤ 日下	5	4	0
③ 石	2	0	0	④ 水加	4	4	0
③ 笹	2	1	0	③ 加山	4	2	0
⑤ 葉	2	1	4	⑥ 山尼	2	2	0
② 広中	1	0	0	⑧ 福平	2	1	0
② 木	2	1	2	⑨ 岡平	2	1	0
PH2 中	0	0	0	⑦ 切	3	3	6
⑧ 岩	4	2	0	計	33	11	3
⑧ 田	4	2	0				
⑧ 橋	2	0	0				
⑨ 黄	2	0	0				
⑨ 古	3	0	0				
① 藤	0	0	0				
① 佐	1	0	0				
⑦ 高	2	1	0				
⑦ 西	2	1	0				
⑦ 子	0	0	0				
④ 谷	3	1	0				
④ 橋	1	0	0				
④ 石	1	0	0				
④ 谷	1	0	0				
① 西	3	0	0				
計	32	10	6				

◇3月30日兵庫相互銀行

関大	0	1	0	0	0	0	0	1
甲南大	2	0	0	1	0	0	0	3

▽二塁打葉山2・佐久川(甲)・中倉・多田・吉村(関)
(投手)佐久川・石塚

[甲南大]	打	安	点	[関西大]	打	安	点
③ 崎谷	4	1	0	⑦ 久保	3	1	0
④ 石大	4	0	0	PH8 樋口	1	0	0
⑥ 重	4	3	2	⑧ 河原	1	0	0
⑥ 葉	4	0	0	PH 林	0	0	0
⑧ 橋	4	0	0	⑦ 中	0	0	0
⑧ 古	4	0	0	④ 井	0	0	0
PH9 藤	1	1	0	⑥ 倉	4	1	0
⑦ 廣	2	1	0	③ 浦	3	3	0
PH7 金	1	0	0	④ 田	1	1	0
⑦ 佐	0	0	0	⑥ 村	1	1	1
① 中	3	1	0	③ 本	1	2	0
②	3	1	0	⑤ 川	2	0	0
計	34	9	3	⑤ 野	0	0	0
				① 田	1	0	0
				PH1 高	0	0	0
				① 鎌	1	0	0
				① 山	1	0	0
				② 市	0	0	0
				② 村	2	0	0
				計	29	5	1

近畿六大学春季リーグ戦

奇跡の優勝成る

◇4月2日神戸市民球場

和 大	1	0	0	0	0	1	2
甲南大	2	2	0	2	0	4	12

▽二塁打古谷(甲)・松本(和)

◇4月6日神戸市民球場

神外大	0	0	0	0	1	0	1
甲南大	0	0	0	0	5	0	5

▽二塁打中西(甲)・福田(神)

◇4月14日神戸銀行球場

甲南大	1	0	0	0	1	0	3
近 大	0	0	0	0	0	0	0

▽二塁打和田(近)

◇4月15日神戸市民球場

近 大	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	3	0	1	3	0	0	7

◇4月17日神戸市民球場

甲南大	0	0	0	0	0	0	0
大経大	0	1	0	0	0	0	1

▽二塁打土屋(経)・木原(経)

◇4月21日尼崎市営球場

大経大	1	0	0	0	0	1	2
甲南大	0	0	0	0	1	0	1

◇4月23日神戸市民球場

甲南大	4	0	0	0	0	3	7
和 大	0	0	0	0	1	0	1

▽二塁打中村(甲)

◇4月24日神戸市民球場

甲南大	0	1	0	0	0	1	6
神外大	0	0	0	0	0	1	1

▽二塁打黄(甲)

◇4月30日尼崎市営球場

神商大	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	0	0	0	0	0	1	1

▽本塁打重田(甲)

◇5月4日浜甲子園球場

甲南大	3	0	0	1	3	1	8
神商大	0	0	0	0	0	2	4

▽本塁打中西(甲)▽三塁打塩見(神)
▽二塁打葉山・中村・木村(甲)・田中(神)

◇5月8日兵庫相互銀行球場(優勝決定戦)

大経大	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	1	0	2	0	0	0	6

▽三塁打重田(甲)▽二塁打葉山・木村(甲)

春季リーグ戦成績表

チ ム 名	甲 南 大	大 経 大	近 畿 大	神 商 大	神 外 大	和 歌 山 大	勝 敗 数
甲南大	●	0	2	2	2	2	8
大経大	2	●	1	1	2	2	8
近畿大	0	1	●	1	2	2	6
神商大	0	1	1	●	2	2	6
神外大	0	0	0	0	●	1	1
和歌山大	0	0	0	0	1	●	1
敗 数	2	2	4	4	9	9	

[表彰選手]

- 最高殊勲選手 葉山忠正 (甲南大)
- 最優秀投手 中西良輔 (甲南大)
- 敢闘選手 木原康夫 (大経大)
- 首位打者 高田昌範 (近 大)

[打撃十傑]

- 1 高 田(近) 0.471
- 2 田 中(商) 0.393
- 3 安 田(近) 0.389
- 4 福 田(外) 0.375
- 5 葉 山(甲) 0.362
- 6 上 所(商) 0.357
- 7 和 田(近) 0.352
- 8 大土井(近) 0.333
- 8 橋 本(甲) 0.333
- 10 土 屋(経) 0.324

オープン戦

- 甲南大 1 — 6 池田銀行
- 甲南大 1 — 3 関学大
- 甲南大 2 — 1 京都大 (延長10回)

第十六回全日本大会

八月二日から神宮球場で開かれた。大会第三日の四日、一回戦で優勝候補の早稲田大学と対戦し、4対1で破れ全国征覇の夢は一回戦にして消えた。

◇8月4日神宮第二球場

甲南大	1	0	0	0	0	0	0	0	1
早大	1	0	1	2	0	0	0	0	4

[甲南大]	打	安	点	[早大]	打	安	点	失
6 重田	4	0	0	32	6	3	2	
3 石崎	4	0	0					
5 葉山	3	1	0					
7 中村	3	1	0					
8 橋本	3	1	1					
9 黄	2	1	0					
PR 藤田	0	0	0	(甲)中西	8	36	2	8
9 古谷	1	1	0					3
2 木村	4	0	0					回
1 中谷	4	1	0	(早)藤岡	9	31	6	3
4 大計	31	6	1					4

戦評

甲南は初回三死一・二塁の好機に五番橋本が右翼線に安打して一点を先取した。しかしその裏、早大は甲南のエース中西の乱調から内野エラーを含む三つの四球で押し出し、たちまち同点とした。三回にも四球を足場に外野飛球で逆転。さらに四回にも四球とヒット、エラーなどで追加点を許した。逆転された甲南はその後しばしば巧打を放ったが決定打が出ず二回以降降点することができずそのまま押し切られた。甲南中西投手は早大をわずかに二安打五回以降は無安打に押える好打を示したが前半のコントロールの乱れから大量点を与え自滅した。早大はその後順調に勝ち進み五度目の優勝を上げた。

OUT & SAFE より

この試合は初回から荒れた、つまり、一回甲南大は二死後四球と内野安打で一、二塁とし五番橋本が右前に落とし先制したがその裏早大は、中西の乱調に乗じ一失策をさむ二四球で無死満塁とし、一死後五番高崎が2-3から押し出しで同点にしさらに三回三番辻が四球で出塁すかさず二盗の後、川本のゆるい三ゴロで三振、高崎の中飛球打でリードした。また四回にも失策と内野安打で一死一、二塁、二四球で押し出しさらに悪投を呼び二点を取った。これに対し甲南大は、二、三回には安打のランナーを出しながら後続がなく結局、二安打の早大が甲南大を、六安打散発に押えて勝った。

オープン戦

◇8月21日兵庫相互銀行

兵農大	1	0	0	0	0	0	0	1
甲南大	2	0	3	3	0	0	1	9

(兵)辰巳・田頭一井上
(甲)佐久川・藤田・吉田一木村・田村

◇8月27日兵庫相互銀行球場 (6回コールドゲーム)

甲南大	1	0	2	0	0	0	3
同志社大	0	0	0	2	0	0	2

バッテリー
(甲)吉田・佐久川一木村
(同)北村一富田

近畿六大学秋季リーグ戦

◇9月2日兵庫相互銀行球場

甲南大	3	0	3	0	4	0	0	2	12
和 大	1	0	1	0	0	0	0	2	

▽二塁打重田・木村(甲)・山本2(和)

◇9月7日川重グラウンド

甲南大	4	2	0	0	0	0	0	6
神外大	0	1	0	0	2	0	0	3

▽二塁打橋本・重田(甲)

◇9月8日川重球場

神外大	0	1	0	0	0	3	0	0	4
甲南大	0	0	0	0	0	0	0	0	

◇9月10日川重球場

甲南大	0	0	0	1	0	0	0	1
神商大	0	1	1	0	0	0	0	2

▽二塁打田中(商)

◇9月11日川重球場

神商大	0	0	0	0	0	0	1	1
甲南大	3	0	0	0	1	0	0	4

▽二塁打木村(甲)

◇9月15日我孫子球場

近 大	0	0	0	0	2	0	3	5
甲南大	0	0	0	1	2	0	0	3

▽三塁打和田(近)▽二塁打黄(甲)・安田(近)
(日没7回コールドゲーム)

◇9月17日我孫子球場

和 大	0	0	0	0	0	0	1	1
甲南大	0	0	3	5	0	2	0	13

▽二塁打 村(和)・藤本・古谷(甲)

◇9月18日我孫子球場

甲南大	0	0	0	5	0	0	0	3	8
近畿大	1	0	0	0	0	0	1	0	2

▽本塁打重田(甲)・和田和(近)
▽三塁打安田(近)▽二塁打木村・中西(甲)

◇10月22日須磨球場

甲南大	0	0	0	0	2	1	3	6
大経大	0	0	0	1	0	0	0	1

▽三塁打中西(甲)
▽二塁打藤田(甲)・三国(経)
(日没8回コールドゲーム)

◇9月7日須磨球場

大経大	0	0	2	1	0	1	0	4
甲南大	2	0	0	0	0	0	0	2

▽二塁打橋本2黄(甲)

[打撃十傑]

	打率	打数	安打
1 田 中(商)	0.421	38	16
2 石 崎(甲)	0.343	32	11
3 和 田(近)	0.333	36	12
3 三 国(経)	0.333	33	11
5 中 野(近)	0.323	34	11
6 福 田(外)	0.315	38	12
7 大土井(近)	0.307	39	12
8 沖 (甲)	0.305	36	11
8 松 本(和)	0.290	31	9
10 西 土(外)	0.272	33	9

第十五回学習院大定期戦

◇11月14日学習院グラウンド

甲南大	2	0	0	0	0	2	0	4
学習院	0	1	0	4	1	0	0	6

▽三塁打橋本(甲)・北原(学)

[甲南大]	打	安	点	失	[学習院大]	打	安	点	失
③ 石崎	4	1	0	1	③ 森	4	1	1	0
⑦ 高嶋	4	1	1	0	⑥ 吉武	4	1	0	0
⑥1 重田	4	1	0	1	⑦1 北岩	3	1	0	0
⑧ 橋本	4	2	3	0	④ 岩原	4	2	0	0
⑨ 黄	3	0	0	0	⑤ 加丸	0	0	0	0
⑤6 藤田	3	1	0	1	② 藤山	4	1	1	0
② 池ノ上	3	0	0	0	⑤ 渡秋	4	1	2	0
② 古谷	1	0	0	0	⑨7 奥山	3	1	0	0
① 佐久川	2	0	0	0	④ 野野	4	1	2	0
⑤ 藤本	1	0	0	0	①7 奥野	0	0	1	0
④ 石橋	4	1	0	0	PH9 細	1	0	0	0
計	33	7	4	3	計	31	8	5	0

◇11月15日

学習院	1	1	0	3	4	0	0	9
甲南大	1	2	5	0	0	0	5	13

▽本塁打藤本(甲)▽三塁打北原・田中・丸山・奥野(学)・橋本(甲)
▽二塁打丸山・渡辺(学)

[甲南大]	打	安	点	失	[学習院大]	打	安	点	失
③ 石崎	4	4	3	0	③ 森	4	0	2	0
⑦ 高嶋	3	3	1	0	⑥ 吉武	5	3	0	0
⑥ 重田	2	0	1	0	⑦ 加丸	4	0	0	0
PH 藤田	1	0	1	0	④5 北岩	4	2	1	0
⑤ 黄	2	1	3	0	② 高田	3	0	0	0
⑧ 橋本	5	2	0	0	PH 藤山	1	0	0	0
⑨ 黄	4	0	0	0	⑤ 丸山	5	3	2	1
PH9 古谷	1	0	0	0	⑧ 秋山	0	0	0	0
⑤6 藤田	3	0	0	1	⑧ 渡秋	5	1	0	0
① 佐久川	1	0	0	0	⑧ 奥山	0	0	0	0
PH 入中	1	0	0	0	⑨ 野野	4	1	0	0
④ 石橋	1	1	0	0	① 細	4	2	3	1
PH 前	1	0	0	0	計	39	12	8	2
④ 藤本	1	0	0	0					
計	30	11	9	1					

去年一年間を振り返り (甲球 部創立十五周年記念号より)

第十一回卒 葉山 忠正

我々一同の目標は優勝と言う一言であった。それには部員が一丸となる以外に方法はない。ずばぬけたプレイヤーは一人として居らず、皆、ドングリの背くらべであったが、リーグ戦では秋・春と二度も優勝し、全日本大会にも出場する事が出来、満足な年であった。我々の学年には主務としてネズミのようにコチョコチョした滝弘、兄貴の様な抱擁力のある波多野、副主将には体の大きなデカこと中村、エースはハラキリの威名を持つ中西、内野にイレブンこと広江、そして外野手にはファイトあふれる金子の伝、以上六名が最後まで私について来て呉れた。戦績は秋には三敗し、初の三校による優勝決定戦に持込み、近大・大経大に大熱戦の末快勝、私の野球部生活で最高に印象に残る試合であった。

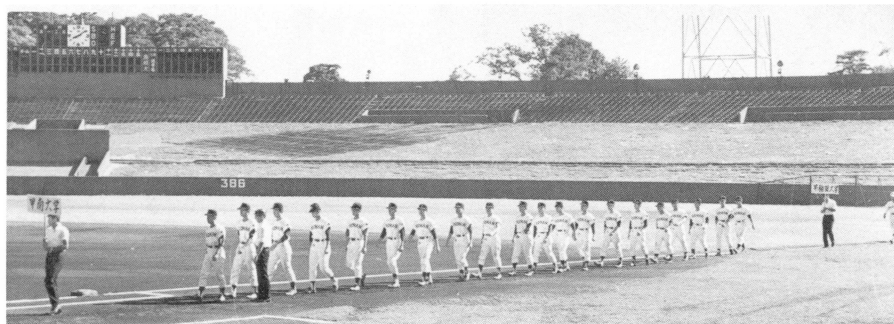
合宿では、中西・中村が最高調で、特に投手の中西は球速を増し、レギュバチで点を取る事が出来ず、島野さんの抜けた投手への不安は一掃された。又一回生上の大西さん、佐藤さん、島野さんをはじめ、大先輩の上田さん、

榎本さん等がコーチに来られ、大変喜んだ事が思い出される。

春のリーグ戦は大経大に連敗し、秋に続く優勝決定戦になったが、大経大に楽勝、連続優勝が出来た。決定戦にもなると実力以上に伝統の強さを生みだしてくれた。我々は入学以来八回のリーグ戦に、六回優勝と最高にめぐまれ、リーグ戦での優勝は当然のように思っていたが、最高学年での優勝は何とも言えぬ嬉しさと同時に優勝の難かしさが身にしみました。ただ私の心残りは全日本大会で一回戦で敗退した事だった。過去三年間連続して全日本大会に出場しながらも、いずれも一回戦で敗れていたのだから、このジンクスを我々の手で打ち破ろうと意気込んでいたのだが、早大の力の前に涙をのまなければならなかった。我校相手に、ヒット二本の早大(この年の優勝校)からの感じでは、甲南大学の全国征覇も夢ではなく、近い将来、我々の出来なかった事を必ずやりとげてもらいたい、これはOB全員の悲願ではなからうか。



昭和39年全日本選手権大会 入場行進 (於 神宮)



開会式



対 早大戦 (於 神宮第2)



昭和38年秋リーグ優勝(於 大経大G)
優勝決定戦後

部に想う（甲球 部創立十五周年記念号より）

重田 正治

此の度、甲南準硬式野球部史が創刊され、文面に於いて先輩諸氏の学生時代の有りかた、又、部の運営について知る事が出来一潮うれしく思っています。際して小生にも一筆する様にとの達しが有り至らぬながら筆を走らせてみました。我が部では長髪が許されるという動機にもならない動機で入部したのですが、準硬なら練習だってきつくもないだろう等と今に思えば勝手な安易な気持ちも供って居た様です。併し現実には度肝を抜かれるきびしさで体力以上の練習量だった。反面、野球に「張り合い」を感じたものです。なごやかなムードを持った部と云うのが第一印象で直ぐ様、チームメイトに解け込めた物です。足が短いのか、胴が長いのかいつもいびられて居る愉快的な石崎、色気がなさそうで持って居るタフな藤田、気の良い若年寄、黄、それに野球と寄席と道を間違えたのじゃないかと思われる位笑いを巻き起す陽気な大谷と一癖有りそうな連中と三年間全く短いと感じながら良くぞ部に籍を置いたものと自己満足に浸って居ります。全てを忘れ白球と取り組んだものの、一体白球に何を教えられたのだろうと自問自答しても答は返って来ません。学生生活、我々の場合部生活と社会生活の共通点は、耐え忍ぶという言葉だと先輩に教えられ、当時は吟味しなかったもの、理解出来ぬまま頭に残して居たのですが社会への踏み出しに直面した昨今、薄々ひも解けて来た様です。全てに於いて自らその体力的限界、技量の限界を超越した事に取り組み始めて無形の力を取得し進歩が有るのだろう。良き先輩、友人を得、身心をいじめ自己を地固めして来た部に変え難い愛着を抱く物が他に有るだろうか？如何なる時でも何処で学んだかという事より何を学んだかという方が大切だと誰かが陳述して居たが将にその御

人の云われる通りだとしみじみ感じさせられました。勝負は全て勝たねばならない。スポーツ精神は勝つ事よりも過程が大事との事だが勝利を手中に収めればこそ練習に魂が打ち込めるではないか、目標が有ればこそ、研究心が旺盛に成り、技術の向上が計れるので有ろう。やはり勝負事は勝たねば意味がない。こう考えるのは小生だけだろうか。されば、勝利に何が直決するのか、勝利への執念は勿論の事、然りと有る。これ程強い味方はない。幸い我が部では特筆すべき和に優れて居る。

先輩達の代にも言葉に出来ない程のチームの和を誇って居りムードで勝利を導くのだと身にしみて教えられたものです。人間には信頼を抱かれると期待を裏切るまい、何としても応えたい観念が働き張りを感じ自然と互いの信頼感を植えつける様です。小生にもボール拾いの楽しい思い出も有ります。ボール拾いが居なくては練習が出来ない等と自身貴重な存在と自己満足しながらボール拾いに徹した。試合になれば先を急いで先輩のグラブやバットを受け取りにいったものです。まして試合に出してもらえたとすると欲が出て我を忘れて野球と取っ組みました。立場は変り先陣切ってチームを引っ張る小生には野球を楽しむ余裕何んて微塵も有りませんがチームを預かる責任と伝統を傷つけない一心に刈り立てられ邁進して居ります。併しこの部として構想練る楽しみは湧いて来る様です。とは云うもの楽しむ野球は下級生時代に有るのでは。ノックバットを持った主将に怒鳴られ励まされしほられた頃が今に想えばなつかしい。

旅行気分を楽しんだ遠征、主将の顔が鬼に見えた合宿、雨よ降れ降れと願った冬のトレー。全て野球が我が部が創ってくれた思い出で有る。良かった。学生生活を意義深く出来たこの部に入って良かったとふと思った。

ご挨拶

顧問 中山 大
本年(昭和42年)1月より横川先生に代り当準硬式野球部の顧問を引き受けることになりました。この紙面を借りて、先輩諸氏にご挨拶させていただきます。前任者の横川先生に比ぶれば、野球のキャリアや実力は私の方が上だと自負しておりますが、しかしそれとても既に容姿上の理想的体位バランスはおろか肉体健康上のバランスさえもくずす中年型体位ともなりますと、それとても大差なく、まして顧問としての役割を前任者ほどに果せることはとても思えません。先輩諸氏のご指導と学生諸君のご協力を期待して、引受けることになりました。よろしくお願ひいたします。こんにち甲南大学全体のスポーツ水準はその成績から判断する限り、相対的に低下しつつあるように思われます。このことは他の諸大学ほどマンモス化せず、またスポーツ入学を認めない学校の方針からすればやむをえざる結果とも考えられます。その中において、当野球部が、本年度の近畿六大学春季リーグ戦に優勝するとともに全日本大会において、ベスト・エイトに残るといふ輝かしい戦績をおさめることができましたことは、先輩諸氏が築かれました輝かしい伝統に励まれた学生諸君の激しい練習と努力のたまものであろうかと思われ、ご同慶の至りであります。甲南スポーツ全体が負っているハンディキャップは、当野球部においても部員獲得の困難となってあらわれておりますが、しかし部員一同そのようなハンディを一層の練習と団結によって克服し、先輩諸氏の残された名門甲南野球部の伝統を守っていく所存であります。今後とも先輩諸氏のご指導と激励をお願いいたします。

ごあいさつ

甲球会々長 梶本 善夫
第一回甲球を発刊以来、早や四年の星相が経過しここに第二回目の甲球を発刊することが出来又、その間に数十名ものOBが誕生し、新会長として無迎へ得ました事は、甲球会の成長充実として同慶に耐えませぬ。一昨年初代会長赤松先輩より会長の重任を仰付けられて以来、多忙を理由に何等の施策もなく今日に至り誠に申し訳なく存じて居る次第でございますが、合宿には時間の許す範囲内で参加し、積極的に後輩に愛のノックを打って下さるOB会長の人々に与えられた体面を保っているのが現状です。会員の増加と共に、年二回のOB戦には参加人員もグンと増え、OBだけで二チームが編成出来るようになりましたのも会員諸氏の野球への限らない情熱と後輩への愛情の賜であると感謝して居ります。今後は尚諸兄の出席を希望致します。現役の諸君も昨年は大いに興奮し、久し振りに夏の全日本大会に出場しベストエイトに残る健闘を示して呉れました。今年も練習に次ぐ練習を重ね。昨年以上の好成績を必ず残してくれるものと期待して居

りますのでOB諸兄も大いに御声援下さい。最後に現役の諸君は合宿に際し、全額自己負担の為、極めて粗食に甘んじて居り、OBとしてはもう少しスタミナ食を摂らせてやりたいと思っているのですが、何分にもOB会費の徴収が悪く思うに任せないのが現状です。過去の分までとは云いません。今後は後輩の為に是非御送金下さる様お願い致します。

ご挨拶

一回生(前甲球会々長)赤松 幹雄
或る月曜の朝突然会社へ旧友から電話がかかって来た。同じ甲南で永い間つき合ったH氏からだった。その時私は野球部OB会長、H氏もある運動部のOB会長をしていた。電話に出るといきなり「野球部は暴力団か!君は暴力団の親玉か?」とどえらい勢いでがなり立てられ何の事やらさっぱり分らず委細を問ひ正してみた。なんだ計らん日曜日の母校のグラウンドで二つ部が運動場の使用权をめぐって暴力沙汰に及んだとの事だった。勿論現役選手の他双方ともOBが2・3人おりながら大人気のない事この上ない。たまたまH氏も居り合せ「面目にかけても野球部OB会長から謝罪文をとってやる。」と先手をうってきたわけである。私としては相手方からの一方的な話だけを信ずるわけにはゆかないのは当然だが、さりとて野球部が全面的に悪くないと云い切るには少し不安を伴った。(昔からよくトラブルを起す部でしたからね)即日関係者をあつめ事情を詳しく聞き云い分を聞いてみた。どうやら野球部側に非はなしと判断出来たのでその後H氏と何度か話し合いを重ねるうち「時」という自然の配剤が作用し、丸くおさまってしまった。もとを正せばネコの額の様なグラウンドに原因があり、多くの運動部がひしめき合い自己の立場を有利にしようとすれば当然の結果としてトラブルが起る。その以前になにかトラブルの下地でもあれば一触即発となる。手狭になった地上での国境争い、領海争いを国家間でやり、戦争をおっぱじめるのもこの種のスケールの大きなやつと思えばよい。国にも国際的体面があるのと同じく、我々にもOB会長という立場があり、メンツを重んずる余り時にはガンコにもなるし、ゆずれぬ線もある。母校も最近急速な発展をとげ次々と学舎が新增築されてゆくがバランスのとれた発展が望ましいと思う。

昭和四十年～四十二年球史概要

四十年年度の春季は、経大、商大、甲南と三校が迫中した力を持っていたが総合力に優る経大に優勝をさらわれ、我校は又も前シーズンに続き三位という成績に終わった。六月には全日本出場権を掛け、近畿大会に出場したが、準決勝において、大商大の前に惜敗を喫した為に中央大会出場断念をやむなくさせられた。秋季において前シーズンの雪辱を果たそうと部員一丸となって経大に当たったが、結局は四十一年度の春季と共に経大に屈服せざるを得なくなった。四十一年度西日本大会の出場権をつかむという結果になった。



昭和40年～41年卒業メンバー
(昭和39年徳山合宿)

西日本大会で惜敗

しかし西日本大会に於ては伏兵福岡大二部に決勝戦の前に敗れた。四十一年度秋季においては又々経大に一矢を報いる事は出来ても、優勝は出来ず、野望は又来春に持ち込まず事となった。

経大11度目の優勝全日本大会ベスト8に残る

四十二年春に於て遂に三年越しの野望を果たすと共に経大をも倒し全日本大会の出場権を獲得。全日で初戦関東選手権優勝校、国学院大を4-2で破り、二回戦全日本大会出場常連校、松山商科大を4-3と連破、準々決勝で宿敵東北学院大と対戦。結局我校の力もここで尽き5-3で敗れた。しかしここでベスト8に残ったという事は、今後全日本大会征覇も近いと期待して良いだろう。秋季リーグ戦は主力五人が抜け、しかも全日後日数もあまりなく十分な練習が出来ず前半戦で神戸商大に不覚を取り結局七勝一負二引分けで二位に甘んじてしまった。



昭和41年卒業生一同
(昭和38年4月撮影)

野球部在籍の思いで (甲球第2号より)

(昭和40年秋～41年春)

十三回生 古谷 勝

我々の目標は、リーグ戦の優勝(打闘経大)であった。しかし経大の壁は厚く、秋・春リーグ戦とも敗れ、目標は達成出来なかったが、部員が一丸となって熱心にやっけて呉れたので私としては、悔のない野球生活を過したと思う。我々の学年には主務の大変熱心で、部の事しか頭になかった。田村、何々小僧の橋本、武蔵こと入江、内野にはジの藤本、金曜日の男、石橋、養子タイプのエース佐久川と四年間気持よくやって来た。私の最も楽しかったのは、岡山の西日本大会で熊本大学、松山商大戦でする事、すべてが的中して勝ったのは今では頭の中に浮んで来る。最後に甲球・二号を発刊されるに当って編集される先輩並びに後輩に感謝します。